

# 日中醫學交流

JAPAN - CHINA MEDICAL COMMUNICATION

## 主题研究 / テーマ研究

卵巢癌的剂量密集 (Dose dense) 疗法 / 卵巢がん治療におけるDose dense療法

日本的胎儿治疗 / 日本における胎児治療

日本的妊娠糖尿病的现状 / 日本の妊娠糖尿病の現状

## 交流活动介绍 / 交流活動報告 (2023年1月~2023年12月)



国立成育医療研究センター / 国立成育医療研究センター

2023.

总97期

NPO法人 日中医学交流中心

NPO法人 日中医学交流センター

JAPAN-CHINA MEDICAL COMMUNICATION CENTER



微信公众号: 日中医学交流

# 日立体外诊断产品系列

HITACHI  
Inspire the Next



## LABOSPECT 006

全自动生化分析仪

- 易操作、可信赖、更精准
- 国械注进20192220080



## LABOSPECT 008α

全自动生化分析仪

- 高速可靠、多元化组合、准确及时
- 苏械注准20232220852



## LABOSPECT TS

全自动样品处理系统

- 高效、高速、智能
- 苏苏械备20231190



## 3500

全自动生化分析系统

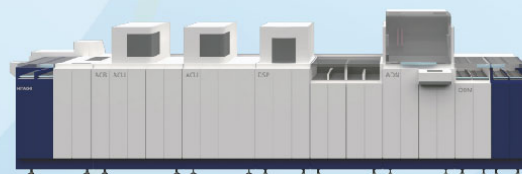
- HbA1c、凝血、散射、生化、ISE
- “五合一”全自动分析系统
- 苏械注准 20202221739



## 3110

全自动生化分析仪

- 智能灵活、简便轻巧
- 苏械注准20182221099



## PAM

样品前处理系统

- 高效迅捷、模块组合、兼容开放
- 苏苏械备20231189

集服务于全球检验界数十年的工作经验,充分体现日立为客户着想和全力服务检验科的一贯原则,结合以提高客户的综合管理水平和全面检验质量为目的的大潮流,推动全新理念的新时代系列综合临床生化检验系统。

株式会社 日立高新技术

地址: 日本国东京都港区  
虎之门一丁目1-7 番1号  
电话: (81) 3-3504-7111  
传真: (81) 3-3504-7754

日立诊产品(上海)有限公司

上海总部  
地址: 上海恒生银行大厦21层  
电话: 86-21-6153-1200  
传真: 86-21-6841-5420

北京分公司  
地址: 北京发展大厦1408室  
电话: 86-10-6590-8700  
传真: 86-10-6590-8710

广州分公司  
地址: 广州海幢大厦704室  
电话: 86-20-8656-9382  
传真: 86-20-8656-7002

大连分公司  
地址: 大连中街大厦1002A室  
电话: 86-411-8360-7998  
传真: 86-411-8360-7998



## 目录 / 目次

### 主题研究 / テーマ研究

卵巢癌的剂量密集 (Dose dense) 疗法 / 卵巢がん治療におけるDose dense療法 ..... 2

### 交流人物 / 交流人

东京大学医学部附属医院 国际体检中心主任 饭塚阳子医生 / 東京大学医学部附属病院

国際検診センター長 飯塚陽子先生 ..... 4

交流活动介绍 / 交流活動報告 (2023年1月~2023年12月) ..... 6

### 主题研究2 / テーマ研究2

日本的胎儿治疗 / 日本における胎児治療 ..... 10

日本的妊娠糖尿病的现状 / 日本の妊娠糖尿病の現状 ..... 14

### 会员企业介绍 / 会員企業紹介

EPS集团 / EPSホールディングス ..... 16

### 日本医学会信息 / 日本医学会情報

2024年4月~2025年3月 / 2024年4月~2025年3月 ..... 18

### 封面设施介绍 / 表紙施設紹介

国立成育医療研究センター / 国立成育医療研究センター ..... 20

### 赞助一览 / 協賛団体

株式会社日立高新技术 / 株式会社日立ハイテク ..... 表2

日本米诺发源制药株式会社 / 株式会社ミノファージェン製薬 ..... 17

EPS益新株式会社 / EPS益新株式会社 ..... 表3

协和麒麟株式会社 / 協和キリン株式会社 ..... 表4

### 日中医学交流

2023年第1期 (总第97期) 2024年3月31日发行

发 行 NPO法人 日中医学交流中心 (<http://www.jcmcc.or.jp>)  
邮编 162-0821 东京都新宿区津久户町1-8 神乐坂AK大厦  
TEL: +81-3-6280-8938 FAX: +81-3-6280-8937

咨询&联系方式 邮箱: [jcmcc01@jcmcc.or.jp](mailto:jcmcc01@jcmcc.or.jp)



微信公众号  
“日中医学交流”

# 卵巢癌的剂量密集 (Dose dense) 疗法

东京慈惠会医科大学妇产科讲座主任教授 冈本爱光  
 日本妇产科科学会常务理事 妇科恶性肿瘤机构 (JGOG) 理事长  
 日本临床细胞学会 (JSCC) 理事长 日本妇科肿瘤学会 (JSGO) 副理事长



卵巢癌的药物疗法经历了环磷酰胺/顺铂、紫杉醇/顺铂、紫杉醇/卡铂的发展过程。目前,已引进血管生成抑制剂贝伐珠单抗、PARP抑制剂等分子靶向治疗药物。根据是否有BRCA基因变异和HRD(同源重组修复缺陷),导入了提供最佳治疗方法的个体化医疗。

此外,结合血管生成抑制剂、PARP抑制剂和免疫检查点抑制剂的三联疗法的临床试验正在进行中。虽然这种疗法有望提高治疗效果,但不可避免地会出现副作用的增加和医疗费用的上涨。我们有必要探讨这是否是正确的方向。

剂量密集 (Dose dense) 疗法是在保持一定剂量的情况下,通过缩短给药间隔来增加抗肿瘤效果的治疗方法,通过提高血管通透性、促进细胞凋亡、提高药物可及性,从而抑制血管生成,提高治疗效果。JGOG3016研究是日本JGOG主导的一项III期临床试验,针对II-IV期卵巢癌,将患者分为每3周给药一次紫杉醇/卡铂的对照组和每周给药紫杉醇、每3周给药卡铂的密集剂量方案试验组,主要终点为PFS(无进展生存期),次要终点为OS(总生存期)。其结果显示,剂量密集组的PFS显著延长,风险比为0.76(图1)。此外,OS也显著延长,风险比为0.79(图2)。

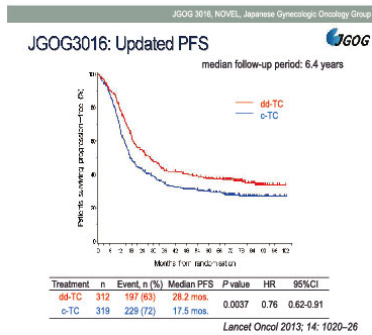


图1 JGOG3016: Updated PFS

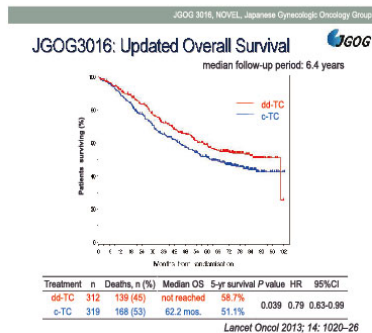


图2 JGOG3016: Updated Overall Survival

亚组分析显示,无论残留肿瘤大小如何, Dose dense 组均延长了PFS,根据组织分型的分析, Dose dense

组的浆液性癌和子宫内膜样癌的PFS显著延长,而透明细胞癌则未见效果。JGOG3016试验的结果引起了全球关注,达到了足以影响卵巢癌治疗指南的程度。

在温哥华召开的第四届卵巢癌共识会议上(由Gynecologic Cancer Intergroup主办),剂量密集疗法作为替代方案被纳入声明中,在东京召开的第五届和第六届卵巢癌共识会议上,也同样被纳入声明。然而,在欧美进行的MITO7、GOG262和ICON8等补充临床试验中,没有发现显著差异。尽管如此,对使用PARP抑制剂维利帕尼的VELIA试验进行的亚组分析表明,剂量密集方案的PFS显著延长,特别是在BRCA基因突变阴性、HRD突变阴性(HRP)病例中确认到PFS延长。剂量密集方案对HRP病例有效的理由是,我们假设HRP病例对紫杉烷类药物比铂类药物更敏感,以及假设密集剂量方案可以将HRP状态转变为HRD状态进行了研究。通过体外研究,我们发现剂量密集的方案会诱导HRD状态,并发现BRCA1的磷酸化以及参与细胞周期的CDK1基因在此过程中起重要作用。并且,在使用临床标本的研究中,证实在采用剂量密集的术前化疗组中CDK1基因表达降低。2002年的SGO公布的JGOG3019、iPoc试验是验证腹腔内给药的临床试验,采用密集剂量疗法的结果显示,与其他临床试验相比,PFS和OS都有所延长。

此外,尽管在ICON8中剂量密集疗法的疗效被否认,但在添加贝伐珠单抗的ICON8B中,剂量密集疗法显著延长了PFS。在我们慈惠医科大学,分析了过去10年的1333例卵巢癌病例,结果表明密集剂量疗法显著延长了PFS和OS,并且进一步证实了加入贝伐单抗可以延长PFS(图3)。

## 慈惠医大2012-2021年卵巢癌的1333例RWD

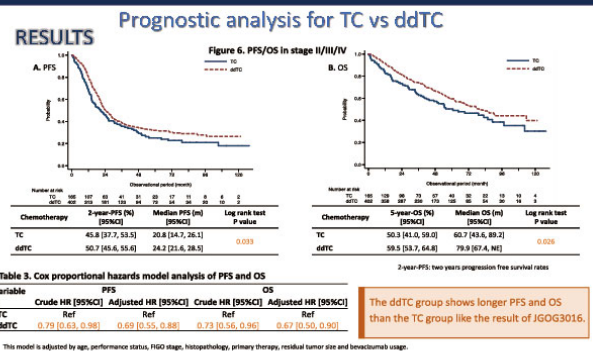


图3 慈惠医大2012-2021年卵巢癌的1333例RWD

预计在未来,密集剂量疗法将再次成为卵巢癌治疗的焦点。

# 卵巣がん治療におけるDose dense療法

東京慈恵会医科大学産婦人科講座主任教授 岡本愛光

日本産科婦人科学会常務理事 婦人科悪性腫瘍機構 (JGOG) 理事長

日本臨床細胞学会 (JSCC) 理事長 日本婦人科腫瘍学会 (JSOG) 副理事長



卵巣がんの薬物治療は、シクロホスファミド/シスプラチン、パクリタキセル/シスプラチン、パクリタキセル/カルボプラチンと変遷してきました。現在では、血管新生阻害剤のベバシズマブ、PARP阻害剤などの分子標的治療薬が導入されています。BRCA遺伝子の変異の有無やHRD (相同組み換え修復不全)の有無に応じて、最適な治療法を提供する個別化医療が導入されています。

さらに、血管新生阻害剤、PARP阻害剤に加え、免疫チェックポイント阻害剤を組み合わせた3剤併用療法の臨床試験が進行中です。これにより治療効果の向上が期待されていますが、副作用の増加や医療費の高騰が避けられない状況です。これが適切な方向性であるかは検討が必要です。

Dose dense療法は、投与量を一定に保ちつつ、投与間隔を短縮することで抗腫瘍効果を高める治療法であり、血管の透過性、アポトーシスの促進、薬剤の到達性の向上により、血管新生を抑制し、治療効果を高めるとされています。JGOG3016試験は、日本のJGOGが主導したフェーズIIIの臨床試験で、ステージII-IV期の卵巣がんを対象に、3週間ごとにパクリタキセル/カルボプラチンを投与するコントロールアームと、パクリタキセルを毎週投与し、カルボプラチンを3週間ごとに投与するDose denseスケジュールの実験アームに分け、主要評価項目はPFS (無進行生存期間)、副次評価項目はOS (全生存期間)でした。その結果、Dose dense群はPFSを有意に延長させることが示されました (ハザード比0.76 (図1))。さらに、OSもハザード比0.79で有意に延長されました (図2)。

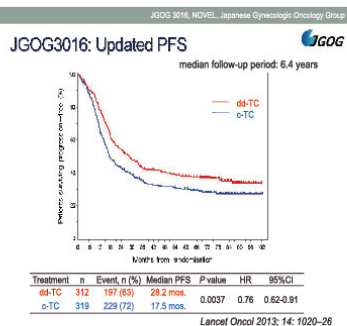


図1 JGOG3016: Updated PFS

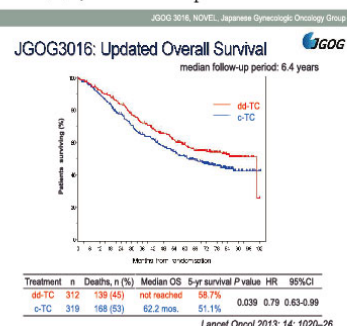


図2 JGOG3016: Updated Overall Survival

サブ解析では、残存腫瘍径の大きさに関わらずDose dense群がPFSを延長したこと、組織型による分析では漿液性がん、

類内膜がんでDose denseがPFSを有意に延長させた一方で、明細胞がんで効果は認められなかったことが明らかになりました。このJGOG3016試験の結果は、世界の卵巣がん治療方針に影響を与えるほどの注目を集めました。

バンクーバーで開催された第4回卵巣がんコンセンサスカンファレンス (Gynecologic Cancer Intergroup主催) では、Dose dense療法が代替スケジュールとして声明文に取り入れられ、東京で開催された第5回、そして第6回卵巣がんコンセンサスカンファレンスでも同様の声明が採用されました。しかし、MIT07、GOG262、ICON8などの欧米で実施された追試臨床試験では、有意な差は認められませんでした。それでも、PARP阻害剤ベリパリブを用いたVELIA試験のサブ解析では、Dose denseスケジュールがPFSを有意に延長させることが示され、特にイタリック遺伝子変異陰性、HRD変異陰性 (HRP) の症例においてPFSを延長させることがわかりました。HRP症例でDose denseスケジュールが効果的である理由として、HRP症例がプラチナ製剤よりもタキサン系薬剤に対して感受性が高いこと、およびDose denseスケジュールによってHRP状態がHRD状態に変化すると仮定して私たちは研究をすすめました。イタリックの研究で、Dose denseスケジュールがHRD状態を誘導すること、そのメカニズムとしてBRCA1のリン酸化および細胞周期に関与するCDK1遺伝子が重要であることを見出しました。さらに、臨床検体を用いた研究では、術前化学療法にDose dense療法を採用した群でCDK1遺伝子の発現が減少したことが確認されました。2002年のSGOで報告されたJGOG3019、iPoc Trialは、腹腔内投与を検証した臨床試験で、Dose dense療法を採用した結果、他の臨床試験と比較してPFSおよびOSが延長されたことが示されました。また、ICON8でDose dense療法の効果が否定されたにもかかわらず、ベバシズマブを追加したICON8Bでは、Dose dense療法がPFSを有意に延長することが報告されました。私たち慈恵医大では過去10年間の卵巣がん症例1333例を解析した結果、Dose dense療法がPFSおよびOSを有意に延長していること、さらにベバシズマブを追加することでPFSが延長されることを確認しています (図3)。

## 慈恵医大2012-2021年卵巣がん1333例のRWD

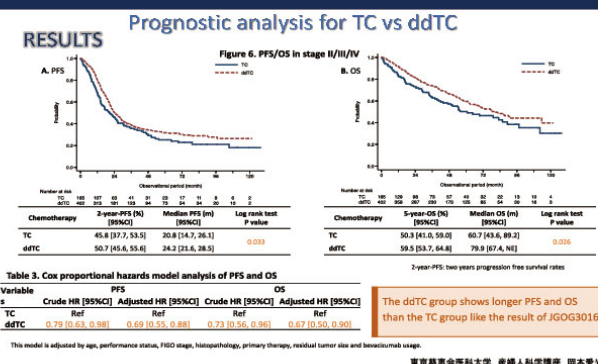


図3 慈恵医大2012-2021年卵巣がん1333例のRWD

今後、卵巣がん治療においてDose dense療法が再び注目されることが期待されます。

根据2021年的数据，全球糖尿病患者人数已增至5.37亿人，我们现在正处在糖尿病大流行被称为全球威胁的时代。中国是世界上糖尿病患者人数最多的国家，约有1.4亿人，剧增至总人口的近10%。本次我们采访了东京大学医学部附属医院国际体检中心主任，同时也致力于跨境（包括中国）糖尿病的治疗与预防的饭塚医生。

2021年のデータでは世界の糖尿病患者人口は5.37億人に増加し、糖尿病のパンデミックが世界の脅威と言われる時代となった。世界で最も糖尿病患者人口が多いのは中国で約1億4千万人とほぼ人口の10%まで急増している。今回は東大病院国際検診センター長として中国をはじめ国境を越えて糖尿病の治療と発症予防に取り組んでおられる飯塚先生にお話を伺いました。



東京大学医学部附属医院 国際検診センター 主任  
国際臨床医学会 理事  
日中医学交流センター 理事  
飯塚陽子先生 (左)

東京大学医学部附属医院 国際検診センター長  
国際臨床医学会 理事  
日中医学交流センター 理事  
飯塚陽子先生

## —飯塚先生您当初是因为什么而选择成为一名医生的呢？

我出生在中国，父母是中国人和日本人，16岁时跳级高中毕业，之后便移居日本。虽然语言方面大概两个月左右就可以用日语打电话了，但由于高考有年龄限制，所以我等到了18岁有考试资格，才参加高考考进了东京大学理科三类。我原本对基因感兴趣，多数人推荐考农学院。但因为我是对人类的基因感兴趣，所以选择了医学院。现在回想起来，我既想从事研究工作，又想与人打交道，同时还因为我的母亲是一名教师而产生了对教职的向往，而如今我能够在大学医院从事临床、教育和研究工作，在我看来走上医生这条道路正是我的天职。

## —您为什么选择了糖尿病代谢内科呢？

我曾经对心血管内科和导管治疗也很感兴趣，因为糖尿病涉及诊察全身，并且通过干预疾病上游的危险因素来预防疾病发生这点对我非常具有吸引力，因此我最终选择了糖尿病代谢内科。同时，糖尿病的诊疗需要与每位患者长期密切配合，提供营养咨询、用药咨询等团队医疗发挥作用的地方也很打动我。能够通过团队医疗的妥善控制，有效预防和控制糖尿病并发症的发生及发展，维持和改善患者的生活质量，并有助于降低医疗费，让我觉得这份工作很有意义。通过在上游的些许努力可以产生很大的效果，也让我感受到预防医学的重要性。

## —听说您也非常重视治疗中国糖尿病患者，在这方面做出了国际贡献，您能为我们介绍一下吗？

2011年和2012年的两年里，作为经济产业省重点扶持的项目之一，由医生、护士、营养师和药剂师等组成的团队前往中国上海、北京和杭州，与当地医院工作人员一起开展了日本式糖尿病团队医疗。即使现在经济产业省的支持已经结束，我们仍然应中国方面的邀请，由我一人前往中国，新冠疫情以来则是以线上交流的方式，继续推广日本式团队医疗。这是医疗输出，而在医疗输入方面我们在东京大学医学部附属医院也为来自中国的患者提供糖尿病团队医疗的治疗。

## —饭塚先生您现在既负责糖尿病和脂质异常症的诊疗

## —飯塚先生が医師の道を選ばれたのはどのような理由でしょうか。

私は中国で生まれ、中国人と日本人の両親を持ち、16歳の時に飛級で高校を卒業し日本に移りました。日本語は2カ月ほどで電話でも話ができるようになりましたが、大学受験に関しては年齢制限があり、受験資格のある18歳まで待つて東京大学理三に入学しました。元々遺伝子に興味があり、遺伝子の勉強には農学部がよいと推薦されました。しかし、私は人の遺伝子に関心があることから、医学部を選択しました。今思えば、研究だけでなく人とも係わりたいこと、そして母が教師であったことから教職にもあこがれがあり、今は大学病院で臨床・教育・研究に携わることができ、医師の道が私にとり正に天職だと思っています。

## —その中でも糖尿病代謝内科を選択されたのはどのような理由でしょうか。

循環器内科にも興味がありカテーテル治療にも関心を持ちましたが、全身を診ること、また、疾患の上流にある危険因子に介入することで、疾患の発症を未然に防ぐことに大きな魅力を感じたことから、最終的に糖尿病代謝内科を選択しました。さらに糖尿病の診療は患者さん一人ひとりと長きにわたり一緒に寄り添い治療をすること、栄養指導、服薬指導などチーム医療で取り組むことができるところにも魅力を感じました。糖尿病をチーム医療できちんとコントロールすることで、糖尿病合併症の発症予防・進展抑制に繋がりが、患者さんのQOLの維持改善、医療費の抑制にも貢献が可能となるころにも大きなやりがいを感じています。上流での少しの努力により大きな効果が得られることに予防医学の重要性が込められていると感じました。

## —飯塚先生は中国の糖尿病患者さんの治療を通じて国際貢献を大切にされていると伺っていますが、そこはいかがでしょうか。

2011年、2012年の2年間、経済産業省の採択事業の1つとして、中国の上海、北京、杭州へ医師、看護師、栄養士、薬剤師のチームで現地の病院に行き、現地の病院スタッフと一緒に日本式チーム医療を展開してきました。経済産業省のサポートが終了した今でも、中国からの要望に応じて、私が現地に訪問するなり、

**工作又担任国际体检中心主任，能介绍一下现在的工作重点吗？**

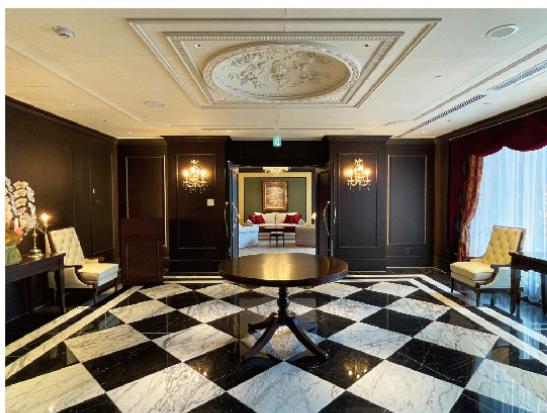
国际体检中心不仅提供预防医学的服务，利用这一平台以预防医学为切入点，为与国外进行临床、教育、研究领域的国际交流作贡献也是中心的使命之一。即使在疫情期间，我们也与北京协和医院、中日友好医院等国内9所医疗机构签订了合作协议，并举办了20多个主题的40多场线上国际学术交流会。不仅局限于以往的糖尿病领域，根据中方的要求，由东京大学医院各个专业领域的专家共同努力达成，我们在其中也起到了桥梁的作用。

同时，线上交流也是非常有用的工具，其魅力在于可以在消除时间、空间或语言的（使用同声传译）障碍的情况下进行。每场学术交流会60分钟，双方分别进行20分钟的演讲，再进行20分钟的讨论，根据中方的要求安排内容。参加交流会的医院在中国国内也是顶级医院，专家们发挥各自优势，平等地进行交流。日方传达的理念包括以团队医疗进行的糖尿病治疗，还有在癌症治疗中由团队从术前·术后的综合管理到重新融入社会等各个方面进行综合支持，而不仅局限于手术技能的高低。我认为，医疗不是一个人就能完成的事情，由各专业团队进行综合管理很重要。

**—最后，您还有什么补充或者其他工作的介绍吗？**

本年度，我们的项目入选了经济产业省的运用医疗ICT的远程医疗支援咨询事业，将在经产省MEJ的支援下与企业一起推进，通过线上学术交流和病例讨论等，打造远程医疗咨询体系，从而加强与国外的合作。

**—非常感谢您百忙中抽空接受我们的采访。**



< 东京大学医学部附属医院 国际体检中心 >  
< 东京大学医学部附属医院 国际検診センター >

为发展预防医学国际化事业，我们于2020年4月成立了国际体检中心，致力于预防医学的全球发展，向海外人士提供体检服务，举办与国外医疗机构的学术交流会，开展宣传册、视频制作、网站公开等宣传活动。

中文网站：<https://www.intl-pvntmed-uth.jp/chi/>

コロナ禍以降はオンラインで交流するなりして日本式チーム医療の普及活動を継続しています。これはアウトバウンドですが、インバウンドでも中国から希望される中国人患者さんの糖尿病治療を東大病院で行っています。

**—現在、飯塚先生は糖尿病や脂質異常症の診療を継続されながら国際検診センター長を務めておられますが、現在の活動についてご紹介いただけますでしょうか。**

国際検診センターは予防医学のサービスを提供するだけでなく、センターの持つプラットフォームを活用して予防医学をキーワードとして海外との臨床・教育・研究面での国際交流に貢献するのもミッションの1つであります。コロナ禍においても北京協和病院、中日友好病院をはじめ中国の9つの医療機関と連携協定を締結して、これまでに20以上のテーマで40回以上のオンラインによる国際学術交流会を開催してきました。ここでは従来の糖尿病関連に限らず、先方の希望に沿ってあらゆる分野の要望に東大病院の各分野の専門家が丸となって取り組んでおり、我々はその橋渡しの役割も務めています。

またオンラインは大変有益なツールで、時間的空間的あるいは言語の壁（同時通訳を介入）も取り除いて実施できることが魅力であります。交流会は毎回60分で双方が20分の発表の後、20分のディスカッションを行い、中国側からの要望に沿ってプログラムを構成しています。交流会に参加する病院は中国でもトップレベルの病院であり、専門家がそれぞれの強みを活かした対等の立場で交流を進めています。日本側からは糖尿病の治療はチーム医療で取り組むことや、がん治療でも手術手技の上手下手の問題よりも術前・術後の総合管理から社会復帰までチームで取り組むとした理念を伝えています。医療は一人で成り立つものではなく様々な職種チームによる総合管理が重要だと考えています。

**—最後にその他の活動に関してご紹介お願いいたします。**

今年度、経済産業省の医療ICTを活用した遠隔医療支援コンサルテーションの事業にも採択されており、オンライン学術交流や症例検討などを通じて海外との連携を目指して経産省MEJサポートの元、企業の方と一緒に取り組んでいます。

**—本日はお忙しい中お時間を頂戴しありがとうございました。**

予防医療国際化事業の展開にあたり、2020年4月から「国際検診センター」を設立し、検診の実施及び海外医療機関との学術交流会の開催の他、パンフレットや動画制作、ウェブサイト公開等広報活動も積極的に行っている。

日本語HP：<https://www.intl-pvntmed-uth.jp/>

# 交流活动介绍

# / 交流活動報告 (2023年1月~2023年12月)

**1** 2月, 日本国立癌研究中心中央医院与江苏大学附属医院连线, 就胃肠外科开展云端交流

2月、国立がん研究センター中央病院と江蘇大学附属病院において、胃腸外科について講演・交流を行いました



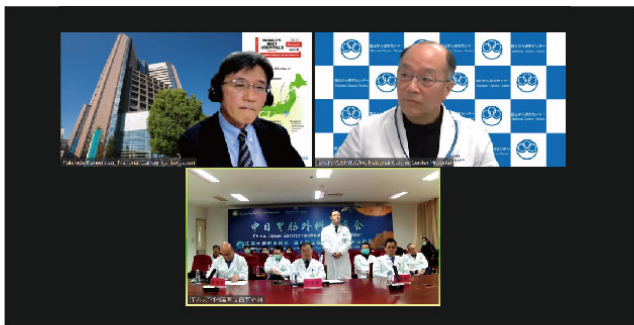
島田和明院長致辞/ 島田和明院長がご挨拶

**2** 3月, 日本国立癌研究中心东医院与安徽省第二人民医院连线, 就胃肠外科开展云端交流

3月、国立がん研究センター東病院と安徽省第二人民病院において、胃腸外科の治療について交流を行いました



伊藤雅昭副院长致辞并演讲/ 伊藤雅昭副院長がご挨拶・講演



大肠外科主任金光幸秀先生、胃外科主任吉川貴己先生作演讲  
大腸外科長金光幸秀先生、胃外科科長吉川貴己先生が講演



大肠外科主任伊藤雅昭先生、胃外科主任木下敬弘先生出席并演讲  
大腸外科長伊藤雅昭先生、胃外科科長木下敬弘先生が出席・講演

**3** 3月, 日本昭和大学临床药理研究所与复旦大学附属闵行医院连线, 就I期临床试验进行线上交流与探讨

3月、昭和大学臨床薬理研究所と復旦大学附属閔行病院において、第1相臨床試験研修会が行われました



复旦大学附属闵行医院会场/ 復旦大学附属閔行病院会場の様子

**4** 6月, 日本庆应义塾大学医院与牡丹江市肿瘤医院连线, 就临床GCP管理进行了交流

6月、慶應義塾大学病院と牡丹江市腫瘤病院において、GCPオンライン交流会が行われました



浜本康夫副教授作演讲/ 浜本康夫准教授が出席・講演



小林真一所长(特任教授)、三边武彦主任(副教授)、肥田典子副教授出席  
小林真一所长(特任教授)、三邊武彦センター長(准教授)、肥田典子准教授が出席



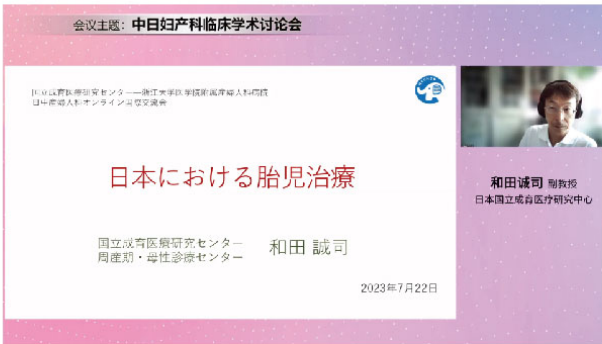
佐藤泰宪副教授与参会专家答疑·交流 / 佐藤泰憲准教授が講演・交流



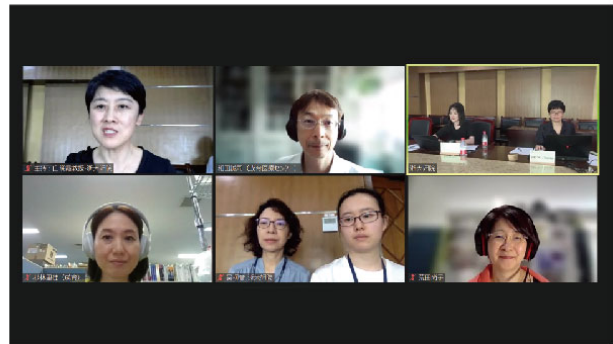
2023年1月~12月, 本中心开展线上交流与中日互访交流相结合, 共实施了8场云端交流会, 7次访日团, 邀请1位日本专家访中交流, 受益人数共计约18000人次。  
 2023年1月~12月、オンライン交流と日中訪問交流と並行し、オンライン交流会8回、訪日団7団体、訪中講演1名で、参加者数が延べ約18000名でした。

**5** 7月, 浙江大学医学院附属妇产科医院与日本国立成育医疗研究中心、东京慈惠会医科大学附属医院间的中日妇产科专家线上交流会顺利举行

7月、国立成育医療研究センター、東京慈恵会医科大学附属病院と浙江大学医学院附属産婦人科病院間で日中産婦人科オンライン交流会が行われました



国立成育医疗研究中心围产期·孕产妇诊疗中心和和田诚司主任作演讲  
 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター長和田誠司先生が出席・講演



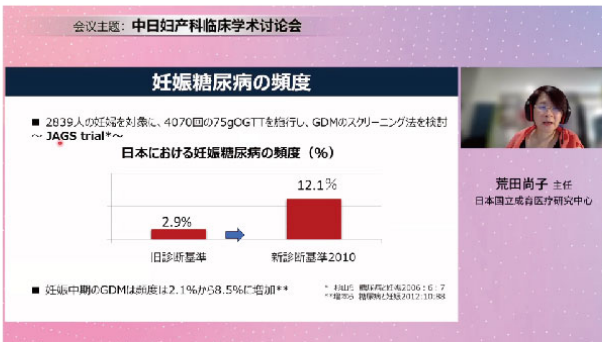
答疑交流 (上午场)  
 質疑と交流 (午前部)



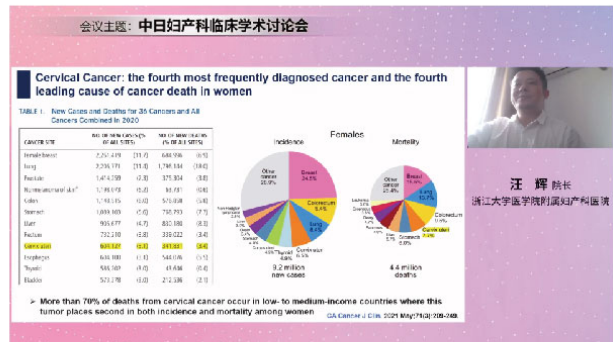
浙江大学医学院附属妇产科医院副院长罗琼教授演讲  
 浙江大学医学院附属産婦人科病院副院長羅瓊教授が出席・講演



东京慈惠会医科大学妇产科教室主任教授冈本爱光先生作演讲  
 東京慈恵会医科大学産婦人科教室主任教授岡本愛光先生が講演



国立成育医疗研究中心孕产妇内科荒田尚子主任作演讲  
 国立成育医療研究センター母性内科診療部長荒田尚子先生が出席・講演



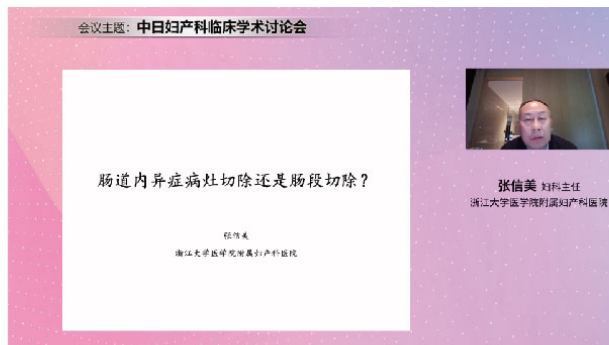
浙江大学医学院附属妇产科医院汪辉院长作演讲  
 浙江大学医学院附属産婦人科病院汪輝院長が講演



浙江大学医学院附属妇产科医院产二科主任梁朝霞教授作演讲  
 浙江大学医学院附属産婦人科病院産科二科部長梁朝霞教授が出席・講演



东京慈惠会医科大学妇产科教室岸裕司副教授作演讲  
 東京慈恵会医科大学産婦人科教室准教授岸裕司先生が出席・講演



浙江大学医学院附属妇产科医院妇产科主任张信美教授作演讲  
浙江大学医学院附属妇产科医院妇产科主任张信美教授が出席・講演



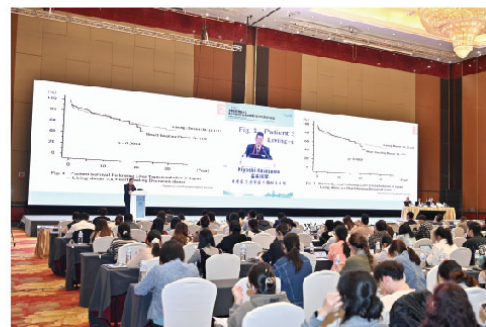
云合影留念 (下午场)  
オンライン記念撮影 (午後の部)

6 10月、本中心邀请日本  
东京大学医学部附属  
医院肝胆胰外科主任、人  
工脏器·移植外科主任长  
谷川洁教授赴昆明器官  
移植大会演讲

10月、東京大学医学部  
附属病院肝胆膵外科科  
長兼人工臓器・移植外  
科科長である長谷川潔  
教授が中国・昆明臓器  
移植大会にてご講演さ  
れました



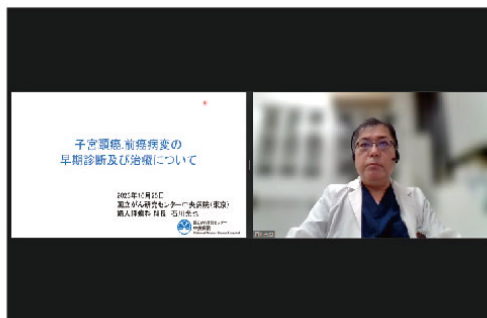
长谷川洁教授在大会上演讲  
長谷川潔教授が大会にてご講演



昆明器官移植大会现场  
昆明臓器移植大会の様子

7 10月、国立癌症中心中  
央医院妇科肿瘤科主任  
石川光也先生在妇科专  
题学术直播讲座演讲

10月、国立がん研究セ  
ンター中央病院婦人腫  
瘍科科長の石川光也先  
生が婦人科学術ライブ  
セミナーにてご講演さ  
れました



石川光也主任作演讲  
石川光也先生が出席・講演



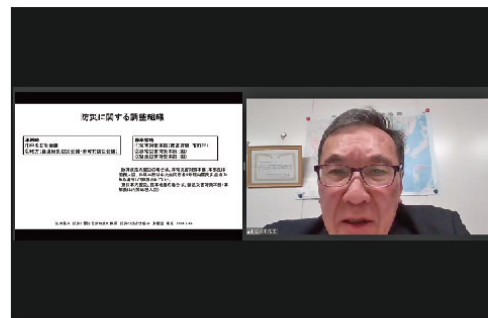
线上答疑环节  
オンライン質疑応答の様子

8 11月、由深圳市卫生健  
康能力建设和继续教育  
中心与本中心共同举办  
的国际公共卫生课程  
(日本) 培训顺利结束

11月、深圳市衛生健康  
能力建設と継続教育セ  
ンターと当センターが  
共同で主催する「国際  
公衆衛生研修」(日  
本)が無事終了しまし  
た



川崎市健康安全研究所所長岡部信彦先生作演讲  
川崎市健康安全研究所所長岡部信彦先生が出席・講演



原都立广尾医院院长佐佐木胜先生作演讲  
元都立広尾病院院長の佐々木勝先生が出席・講演

9 10月, 中国国家卫生健康委人才交流服务中心一行到访本中心

10月、中国国家衛生健康委員会人材交流サービスセンター代表団が当センターを訪問



张学高主任(左)与严浩理事长(右)交谈  
張学高主任(左)と嚴浩理事長(右)との懇談



代表团一行与本中心成员合影  
代表団と当センターメンバーとの記念撮影

10 12月, 本中心代表拜访中国驻日本大使馆科技部

12月、中国駐日本国大使館科学技術部を表敬訪問



祝学华公使参赞(右)与藏中事务局长(左)交谈  
祝学華公使参事官(右)と藏中事務局長(左)との懇談



双方合影留念  
双方記念撮影

11 4月, 本中心作为国家外专局境外培训机构, 参加第二十一届中国国际人才交流大会并出展

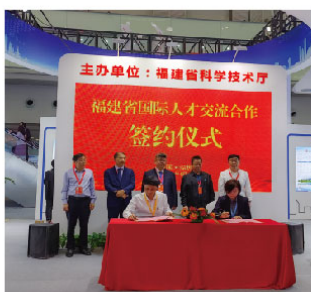
4月、当センターは中国国家外国專家局の海外研修受入機構として第21回中国国際人材交流大会に参加・出展しました



本中心出展/当センターの出展ブース



本中心工作人员/当センターの参加スタッフ



现场签约仪式/受入機構としての調印式



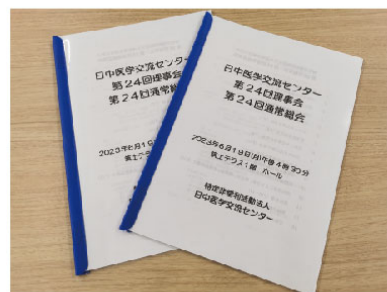
会场外景/会場の外観

12 6月, 本中心举行了第24届理事会·总会

6月、当センター第24回理事会・通常総会が開催されました



6月, 本中心第24届理事会·总会合影  
6月、当センター第24回理事会・通常総会記念撮影



第24届理事会·总会资料  
第24回理事会・通常総会資料